

Environment: 環境報告



持続可能な社会の実現に向けて、環境保全活動を経営上の重要課題と位置付けております。未来の地球のために、山積する環境問題を小島グループ全体で取り組むことで、より大きな環境負荷低減につなげることが大切と考えます。2020年も、昨年に引き続き5つのチャレンジ項目の達成に向け環境活動を推進しました。これからも2030年、2050年の世界を見据え、生産活動と環境保全の両立を図ります。

企業価値を生み出す ものづくりへ

ゼロエミッション事業領域本部長
環境管理責任者
常務執行役員

柳田 浩一



環境に優しいクルマづくりへ

自動車部品製造という立場からクルマ社会に関わる中で、地球環境問題は私達の生活や未来にとって重大な影響を及ぼす事柄の一つと捉えています。また、菅総理が「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」と宣言されたことを受け、企業に対する期待や果たす役割は大きなものになっています。当社もその動きに追随し、環境負荷の低減、つまり、『カーボンニュートラル』の動きをより一層加速させる必要があります。

高い目標を達成するためには、工程内のエネルギーを低減するだけでなく、材料の調達から廃棄までのライフサイクル全体で抑制しなければなりません。当社は得意先へ空力・電池・エンジン部品を提供しており、これらは環境負荷を低減する上で、欠かせない製品です。当社の製品が小型・軽量化・性能向上することで、周辺製品への好影響も期待でき、クルマ全体の環境負荷の低減に結び付くと考えております。今後も、ゼロエミッション技術にこだわったものづくりを目指し、企業価値を創出していきます。これらの

活動を通し、地球に優しく、全世界の子ども達が安心して暮らせる環境づくりに尽力していきます。

サプライヤーとともに

持続可能な社会を達成するには当社だけではなく、グループ会社各社と協力して進める必要があります。創業者の教えである『もったいない精神』、つまり、ムダ・ロス低減活動を普及するために、省エネ分科会を通して推進しています。今後ももったいない精神を具現化した環境活動を継承し、新たな発想と技術を生み出して、CO₂排出ゼロ・廃棄物を生まない世界を目指します。また、同時に自然保護の活動も推し進めています。『観て・触れて・感じる』をテーマに地元大学と連携し、オール小島の社員とその家族に自然と触れ合うことの素晴らしさを伝えています。

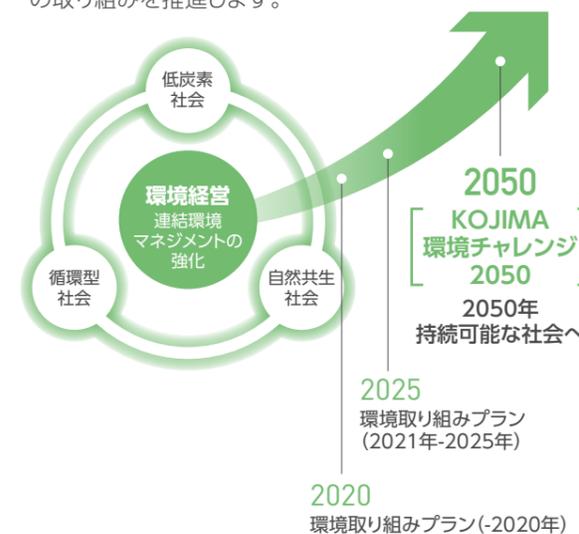
これからもサプライヤーを含むステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切に、地域に愛され地球環境に貢献できる会社であり続けます。

環境経営

持続可能な社会の実現に向けて、環境保全活動を経営上の重要課題と位置付けています。中長期計画を策定するための活動をキックオフし、生産活動と環境保全の両立を目指します。

ありたい姿

開発・生産・物流などの事業活動を通じて、持続可能な社会の構築に貢献していくため、『低炭素社会』、『循環型社会』、『自然共生社会』の3本柱を構築することで環境への取り組みを推進します。



KOJIMA環境チャレンジ2050

環境軸	取り組み項目	実施項目
脱炭素 (気候変動・CO ₂)	①工場CO ₂ ゼロチャレンジ	低CO ₂ 生産技術の開発・導入と日常改善活動によるCO ₂ 低減活動の推進、温室効果ガスの低減
	②ライフサイクルCO ₂ ゼロチャレンジ	製品開発における環境マネジメントの推進(環境負荷評価)、環境に配慮した設計、物流活動における輸送効率追求とCO ₂ 低減
循環型 (資源・水)	③水環境インパクト最小化チャレンジ	生産活動における水使用量の低減と節水活動、水のリサイクル活動
	④循環型社会・システム構築チャレンジ	生産活動における排出物の低減、再生可能資源・リサイクル材活用による枯渇天然資源の使用量低減、物流活動における梱包資材の低減と有効利用、廃車部品に対するリサイクルシステムの展開
自然共生	⑤人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ	各事業所における自然保全活動の推進、森林保全活動による環境貢献
マネジメント	マネジメント	環境法令遵守と環境リスクの未然防止活動、苦情ゼロ活動の推進、製品化学物質管理の充実、環境教育を通じた啓発活動

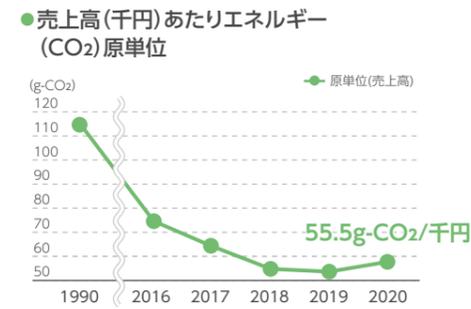
環境目標と実績

	活動項目と2020年度目標	2020年度実績
①環境経営	統合マネジメントシステム認証継続 環境月間活動の実施 周辺苦情「0」	統合マネジメントシステム認証 環境月間活動の実施 地域リスクコミュニケーションの実施(本社地区)、周辺苦情「0」
②環境に配慮した開発・設計	目標:100%	・環境に配慮した設備導入チェックシート低減目標:100%達成 ・環境を考えた研究チェックシート低減目標:100%達成 ・環境を考えた設計チェックシート低減目標:100%達成
③地球温暖化防止	CO ₂ 排出量と売上高あたり原単位 目標:10,004t/CO ₂ 目標:52.5g(千円)/CO ₂	CO ₂ 排出量と売上高あたり原単位 実績:9,676t/CO ₂ 実績:55.5g(千円)/CO ₂
	CO ₂ 低減量 目標:▲232.7t/CO ₂	CO ₂ 低減量 実績:▲284.5t/CO ₂
④水の適正利用	市水使用量 目標:31,317kl以下 工業用水使用量 目標:63,091kl以下	市水使用量 実績:28,113kl 工業用水使用量 実績:55,455kl
⑤廃棄物削減と資源循環	廃棄物排出量 目標:5,419/t	廃棄物排出量 実績:4,521/t(リサイクル材含む)
⑥化学物質リスク低減	化学物質の使用・排出・移動量の把握 目標:41,912/kg	化学物質の使用・排出・移動量の把握 実績:総排出量 42,720/kg
⑦自然共生社会の構築	・福利厚生施設における開花フェロロジー調査 ・社員とその家族向けの活動紹介 ・社有林における「植樹会」の開催	・福利厚生施設における開花フェロロジー調査 ・社員とその家族向けの活動紹介 ・社有林における「植樹会」の開催

CO₂排出量の低減

当社では、地球温暖化問題を重く受け止め、CO₂排出量低減を生産・物流の両面から推進しています。2020年度は『ヤメル、トメル、サゲル、ナオス、ヒロウ、カエル』の視点で省エネ効果が見込める事例の一覧化した帳票を展開し、製造部門を中心にムダロス低減活動に努めました。日頃からこれらの省エネを意識した活動を実施した結果と新型コロナウイルスによる設備稼働減少により、2020年度の排出量は、前年比6.2%減。しかし、エネルギー効率を表

す原単位は悪化しました。今後は、計画的な設備の更新やからくり改善を重点に置き、エネルギー低減活動に努めます。



省エネ事例:ホッパードライヤーの排熱利用による省エネ

射出成形工程の多い高岡工場では、樹脂材料を乾燥させるホッパードライヤーから、排熱(50~60℃)が放出されています。その排熱を回収(ヒロウ)し、給気の温度を上げる(+25~40℃)ことで、電気ヒーターの消費電力を低減させました。

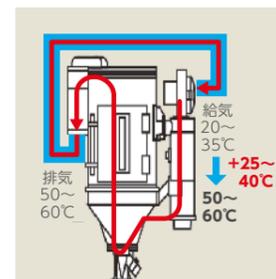
●年間低減効果 CO₂低減:▲31t/年(20台)



VOICE

①品質要件を満たすための材料水分率の調整 ②給気モーターが故障しないための給気と排気口の距離の調整(70℃未満)——に苦労しました。今後も『もったいない』という観点でエネルギー低減活動に努めます。

製造技術部 工場管理課 黒田 達也



※ヒーター設定90℃のとき

環境に配慮した製品設計:マップランプの省資源・軽量化

マップランプは従来まで5部品で構成されていましたが、2色成形を活用した設計にすることで1部品へ集約し、省資源・軽量・小型化することができました。また、成形機の減台によるエネルギー低減や意匠性も向上させました。

●材料使用量:▲78% ●製品質量:▲24%(従来モデル比)



VOICE

性能、意匠などの設計要件と金型、成形、組付などの製造要件の両立に苦労しました。特に2色成形特有の色交じりの対応は大変でしたが、他部署との連携で実現することができました。今後も環境に良い製品を設計できるように努めます。

インテリア開発設計部 オーバーヘッド領域室 内装部品5課 課長 神谷 圭将



再生可能エネルギーの利用:太陽光発電の導入

エネルギーを自分達で作り出せば、ムダ使いしないという考えのもと、太陽光発電を導入しています。本社では、事務棟で消費するサーバーの電力を補っています。

●年間低減効果 CO₂低減:▲22t/年(杉の木:1572本に相当)



植生・昆虫調査

豊田市小原地区にある福利厚生施設において、国立大学法人名古屋工業大学らと連携し、植生・昆虫調査を実施しています。自然環境が保全された『里山』として、希少性の高い植物が見つかっています。

また、2020年には社員とその家族が参加する『植生調査会』を実施しました。参加者からは『自然と触れ合う良い機会になり、動植物の生きる環境を勉強できた』との声をいただきました。今後も、様々な動植物が生息しやすい環境を整えていきます。



イトタヌキモ(絶滅危惧II類)



ミズトシボ(絶滅危惧II類)



ジュンサイ



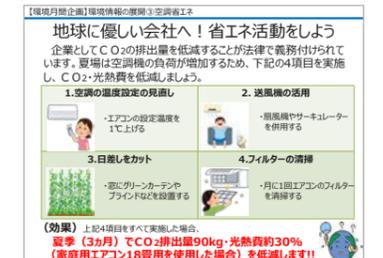
植生調査会

環境月間の取り組み

6月の環境月間では知る、学ぶ、動くの3本柱で社員の意識・知識の向上を図るため、『環境情報の展開』や『環境チャレンジ』などを実施しました。環境チャレンジでは、社員自ら環境活動を計画し、1カ月間実施することで、エコマインドを高めました。



環境チャレンジ



環境情報の展開

環境マネジメントの強化

環境活動に関する理解と知識の向上を図るため、グループ会社を対象に『環境法規研鑽会』を実施し、相互研鑽(人財育成)に努めました。また、社内では環境関連法規の教育講座を立ち上げ、116人が参加しました。今後も講座開設を拡充させ、引き続き、法規遵守に努めます。



環境法規研鑽会



小島プレス工業グリーン調達ガイドライン



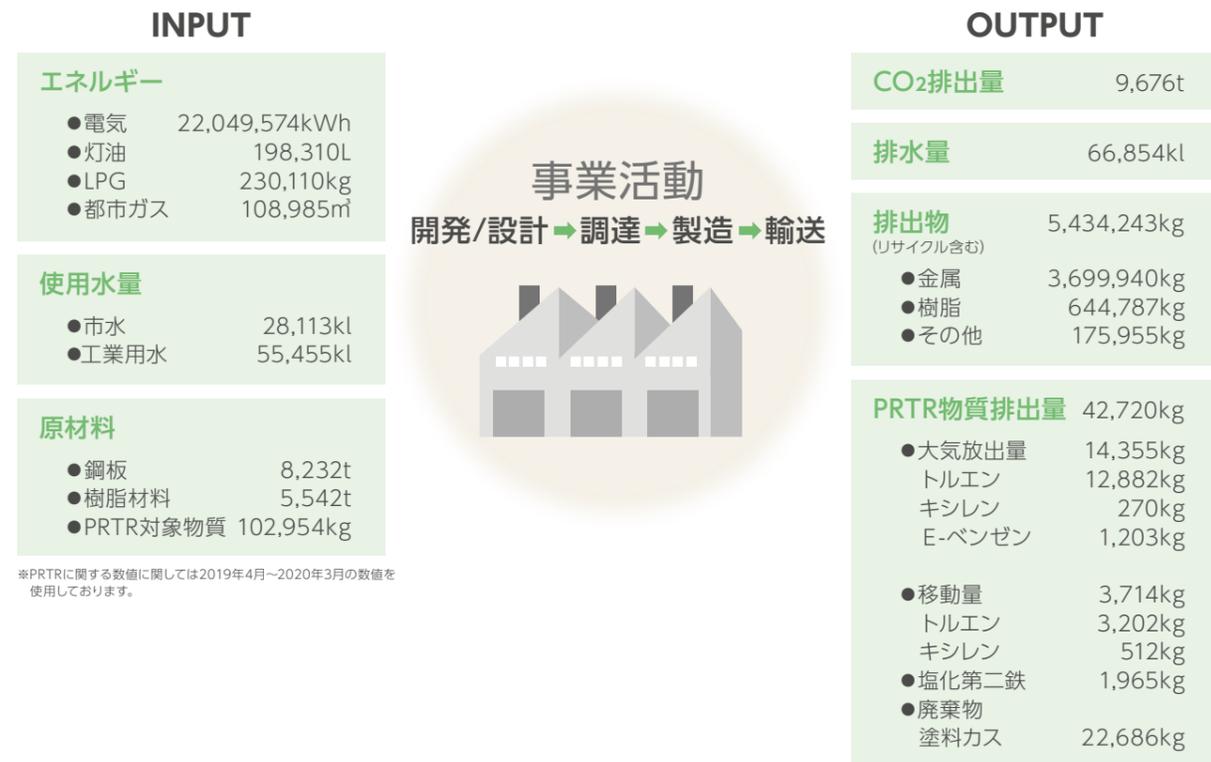
サプライヤー各社に対して、より一層、環境保全活動を推進して頂くために『グリーン調達ガイドライン』を発行し、各種活動に対する協力を依頼しました。また、2020年は仕入先へCO₂排出量の把握やCO₂低減事例の展開をしました。

今後もサプライヤーとともに地球環境との調和を目指した事業を推進します。

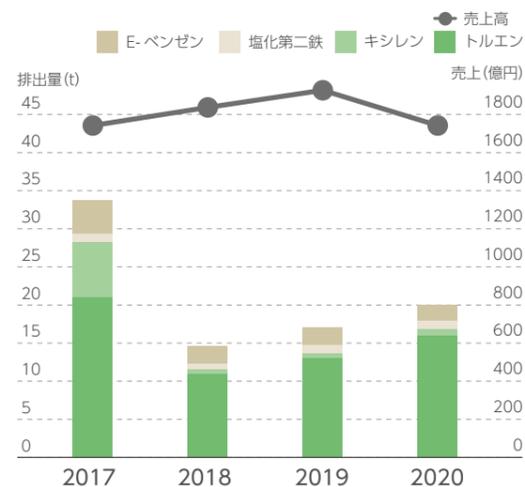
主な活動内容

- (1) 環境マネジメントシステムの構築
- (2) 温室効果ガス(GHG)の削減
- (3) 水環境インパクトの削減
- (4) 資源循環の推進
- (5) 化学物質の管理
- (6) 自然共生社会の構築

物質・エネルギー収支



PRTR対象物質排出量の推移



※2020年度豊田市への報告資料を使用(2019年4月~2020年3月)

PRTR対象物質収支



環境測定データ

●本社・下市場工場

1. 大気 (対象設備全2台)

設備名	項目	基準値	測定値(最大)	評価
吸収式冷温水機	ばいじん排出量	0.1g/Nm ³	実績なし(5年毎)	—
	窒素酸化物濃度	150ppm	44	○

2. 水質

項目	基準値	測定値		評価
		最大	最少	
PH	5.7~8.7	7.4	6.8	○
BOD	300	86	15	○
SS	300	94	4	○
ノルマルヘキサン(鉱油)	5	0.5	0.5	○
ノルマルヘキサン(動植物油)	30	7.3	0.9	○
亜鉛	2	0.5	0.2	○
窒素	150	3.5	1.5	○
磷	20	10	2	○

●高岡工場

1. 大気 (対象設備全3台)

設備名	項目	基準値	測定値(最大)	評価
灯油焚きボイラー	ばいじん排出量	0.3g/Nm ³	0.001	○
	窒素酸化物濃度	180ppm	77	○

2. 水質

項目	基準値	測定値		評価
		最大	最少	
PH	5.8~8.6	7.8	7.4	○
BOD	15	5	0.5未満	○
SS	15	1未満	1未満	○
ノルマルヘキサン(鉱油)	2	0.5未満	0.5未満	○
ノルマルヘキサン(動植物油)	30	—	—	—
亜鉛	1.5	0.02	0.01未満	○
窒素	30	6.5	1.8	○
磷	8	3.3	1.6	○

PCB(ポリ塩化ビフェニル)の保管状況

保管工場	コンデンサ(台)	安定器(個)	変圧器(台)	開閉器(台)
本社・下市場工場	0	0	0	0
高岡工場	0	0	0	0
黒笹技術センター	0	0	0	0
小島総合研究所	0	0	0	0
その他	0	0	0	0

※発見次第、流出や土壌汚染の恐れがないよう、PCB特別措置法に基づき適切に管理し、処理します。